

# 米奥小だより

令和7年6月27日（金）

No.14

米奥小学校 校長 北添 忠

## 〇6月24日に県教委が26日に町教委が米奥小に来ました

6月の最終週は、学校を訪れる方々が大変多い週となりました。24日には高知県教育委員会小中学校課から3名、26日には四万十町教育委員会から14名の来校者があり、



各クラスの授業の様子を見てくださいました。それ以外に、フードロスについての出前授業や食育に関する出前授業などもあり、駐車場がいっぱいになったこともありました。



米奥小学校の児童は、日頃から落ち着いて授業に臨んでいますが、見に来てくれる人がいると少し緊張しながらも頑張ります。これは良い意味での刺激となり、児童の成長を促していると感じます。実は教師にとっても適度な刺激となっています。

このような、児童にとって前向きな刺激となる機会は年間を通してあります。褒められたり、頑張ったと自分で感じられたり、友達と振り返ったりできることは大切です。

米奥小学校は、地域とのつながりがあり、地域の方々が学校に来る機会もあります。教職員の頑張りや地域などつながりのある方々の協力と、そして保護者・児童の前向きな気持ちとが相まって米奥の子どもは成長しています。

これからも、みんなで見守っていきましょう。

## 〇サツマイモの苗を植えました

6月23日（月）の集会の後、みんなでサツマイモの苗を植えました。昨年度までは、割りばしを使って、イモの苗（つる）をさす感じで植えたのですが、今年度は、試しにというか、やり方を変え、移植ごてで土を掘って苗を植える方式にしました。植え方で収量も変わる気がします。昨年度との比較はできませんが、秋に収穫したときに、いっぱいとしたと感じられるといいなと思っています。

たと感じられるといいなと思っています。

児童は3つの縦割り班に分かれて作業をしました。上級生が下級生に植え方を教えながらの作業でしたが、みんなすぐにコツをつかんだというか、イモの生命力に期待するということか、比較



的短時間で作業は終了しました。

朝は小雨が降っていたのですが、作業をしているときは運よく雨は降らず、その後まとまった雨が降りました。適度な雨のおかげか、翌日には多くの苗の葉が元気を取り戻し、成長を始めたことが伝わってきました。日当たりがあまり良くない畑ですが、これからの約4か月間、イモの成長を見守りながら、収穫を待ちたいと思います。

